佐世保の小学校の事件に接して

佐世保の小学校の事件に接して、小学生もＨＰを開設できる今のＩＴ化社会の時代背景が影響しているように思える。

我々は、ＨＰの掲示板、チャット、携帯メール、Ｅ－メールでの文字（言葉）の単なる送受信が、コミュケーションと思いがちでないだろうか。文字は確かにコミュニケーションの高次な信号手段（てがかり）ではあるが、文字のやりとりは、単に情報のやりとりになりがちなことをお互いに確認しておくべきと思う。例えば、会社で机を並べている後輩が、メールで「お先に失礼します」と先輩に送信してくるという。これは、退庁時の挨拶のコミュニケーションでも何でもない。単に自分は早く帰るという情報を伝えているだけである。

コミュニケーションとは、心のやりとりであり、係わり合いの中からこそ、成立するものと思う。言い換えれば、心をより詳細に伝えたいがために、文字という高次な手段を手に入れただけである。直接話せば、話し言葉だけでなく、目の動き、表情、身動き、言葉の発する語調、音色等々から、単に聴覚だけでなく他の感覚も総動員してこちらの心を読みとり、それに対応してくれて、やりとりが始まる。正に、コミュニケーションである。

直接顔を見て話してさえ、時に誤解を生む。故に、時に気分優れなくとも、やりとりを継続する努力が必要となる。

一方、長年の夫婦は、多くを語らずとも、身動き一つでコミュニケーションが成立するというが、それも単に自分がして欲しい情報を伝達しているだけで、コミュニケーションの深まりはない。

特にメールは、やりとりを一方的に拒否する機能があるだけに、やりとりを拒否されたと疑念を抱かせ兼ねない側面がある。また、言葉の羅列のメールだけでは、受信側は自分のもつその言葉の解釈からしか、コミュニケーションの手段を得られない。そこには、発信側の言葉の意味、それを使うニュアンス（状況等々）と、すれ違う可能性は大ということでもある。

時に受信側も、その時の自分の心状から、同じ言葉であっても解釈が異なることもありうる。

コミュニケーションの手段は、コミュニケーションそのものにあらず！

（私は前述の観点から、ＨＰは情報の提供・交換の場であり、コミュニケーションの切っ掛けを提供できたとしても成立の場にはなり難いと思うところもあり、当ＨＰ掲示板への投稿はご遠慮をお願いしています。）

（2004 年 06 月 05 日　記）